

16	碧 南	新川小学校	氏 名	かとう ちかし 加 藤 周 司
分科会番号	3	分科会名	社会科教育	(小学校)

研究テーマ

社会的な見方や考え方を働かせ、仲間とともによりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業
 ー3年社会科「はたらく人とわたしたちのくらし ～新川で初めて作られた白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを解き明かそう～」の実践よりー

1 研究の概要

(1) 主題設定の理由

「学校のまわりには家や公共施設が思っていたよりも多くてびっくりした。」「学校があるところは家に囲まれ、家のあるところはお店に囲まれていて、すごいなと思った。」前単元「学校のまわり」での子どもの意見である。普段になげなく生活している学校周辺の様子を自分事としてとらえ、追究活動を通して考えを深めていく姿が見られた。そこで、初めて社会科を学ぶ子どもたちの社会参画の意識をより高めたいと考えた。本単元は、学区発祥であり、碧南市の特産品である白しょうゆ・白だしを教材として取りあげる。普段の料理に白しょうゆ・白だしが使われているかを尋ねると、「わからない」と答える子どもが68%であった。学区発祥でありながら、普段、あまり意識されていない特産品が教材であるため、子どもたちが自分事として社会的な事象に向き合うには最適な教材だと考える。

子どもたちが社会的な事象を自分事としてとらえることができるようにするため、白しょうゆとこいくちしょうゆの比較や七福醸造株式会社の見学などの活動を通して、白しょうゆ・白だしが新川発祥で、身近な料理に使われていておいしいという事実に出合わせる。課題意識をもち続けることができるようにするため、新川発祥の白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを追究するなかで、「白しょうゆ博士とプロの料理人出前講座」や「白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつをまとめる活動」を単元に組み込む。また、社会的な見方や考え方を働かせられるように、白しょうゆの工場で働く方や出前講座の講師の方の思いに触れる機会を設け、出合った教材を比較・関連づける発問を工夫する。よりよい社会づくりへの参画をめざす意識を高めるために、仲間と協働的に学んだり、単元を通して学んできた社会認識にずれが生じるような事象に出合わせたりする。

本単元を通して、社会的な事象を自分事として向き合い、粘り強く課題を解決し、協働的に学ぶなかで、よりよい社会づくりへの参画をめざす意識を高める子どもの姿を願っている。

(2) 研究主題のとらえ

本研究では、研究主題「社会的な見方や考え方を働かせ、仲間とともによりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業」を次のようにとらえた。

●社会的な見方や考え方を働かせ

「社会的な見方や考え方を働かせ」とは、社会的な事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目してとらえ、比較・分類したり、統合したり、地域の人々や市民生活と関連づけたりして、知りたい・調べたいと強く思うことととらえる。本研究では、白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを自分事としてとらえ、粘り強く課題を解決する姿ととらえる。

●仲間とともに

「仲間」とは、共に学び合う学級の子どもだけでなく、学びを通してかわりあう人・こと・ものもすべて含めたものととらえる。よりよい社会づくりへの参画のためには、仲間の思いや考えに触れることで、社会認識を深めていくことが大切であると考えた。本研究では、協働的な学習を進めるなかで、考えを深める姿ととらえる。

●よりよい社会づくりへの参画をめざす

「よりよい社会」とは、そこにかかわる人にとって幸せを感じられる社会である。追究により社会構造を認識し、自分なりの問題解決が見えた先にあるのが「よりよい社会づくり」ととらえる。「参画をめざす」とは、「よりよい社会」へ「参画する」という行動化だけをめざすのではなく、行動化への意識や意欲を高めたり、きっかけを作ったりする「参画していこうとする」姿や、社会とのかかわりに「思いをはせる」姿も参画ととらえる。本研究では、白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを広めたいと動き出そうとする姿ととらえる。

(3) めざす子ども像

- ・新川発祥の白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを解明したいと強く思い、「作り方のひみつ」「はたらく人のひみつ」「味わい方のひみつ」で学んだ事実を比較、関連づけたりしながら、粘り強く課題を解決する子ども
- ・新川発祥の白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを粘り強く追究することを通して、仲間の意見や思いにふれて考えを深めるなかで社会参画の意識を高め、その意識をもとに、白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを広めたいと動き出そうとする子ども

(4) 研究の仮説

仮説1 単元との出会いを工夫して単元を貫く課題を設定(①)し、課題意識をもち続けることができる単元計画(②)を仕組みば、子どもたちは、新川発祥の白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを解明したいと強く思い、「作り方のひみつ」「はたらく人のひみつ」「味わい方のひみつ」で学んだ事実を比較、関連づけたりしながら、粘り強く課題を解決できるだろう。

仮説2 資料や発問を工夫し、追究活動を通して得た考えを話し合う場を設定(③)し、社会参画の意識を具現化するための工夫(④)を考えれば、子どもたちは、仲間の意見や思いにふれて考えを深めるなかで社会参画の意識を高めその意識をもとに、白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを広めたいと動き出そうとするだろう。

(5) 研究のてだて

仮説1に対するてだて

① 単元との出会いの工夫と単元を貫く課題の設定

新川発祥の白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを解明したいと強く思うことができるようにするため、「白しょうゆとこいくちしょうゆの実物」「明石公園にある白しょうゆの記念碑」を提示する。さらに、「七福醸造株式会社

の見学」を設定し、白しょうゆ・白だしが新川発祥で、身近な料理に使われていておいしいということに気づくことができるようにし、単元を貫く課題を設定する。

② 課題意識をもち続けることができる単元計画

七福醸造株式会社の見学で見つけた「作り方のひみつ」「はたらく人のひみつ」「味わい方のひみつ」を比較、関連づけたりしながら、粘り強く課題を解決できるようにするため、子どもの思考に合わせて、「白しょうゆ博士とプロの料理人出前講座」「白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつをまとめる活動」を単元に組み込む。また、働く方の思い（七福工場の芝田さん・白しょうゆ博士の加藤さん・料理研究家の山口さん・調味料エバンジェリストの下倉さん）に触れる機会を設け、社会的な見方や考え方を働かせるように発問を工夫する。

仮説2に対するてだて

③ 資料や発問を工夫し、追究活動を通して得た考えを話し合う場の設定

仲間の意見や思いにふれて考えを深めるなかで社会参画の意識を高めるため、単元を貫く課題を粘り強く追究することを通して得た考えを話し合う場を設定する。「3年1組では78%の家庭で使われている白しょうゆが、全国では生産量が0.7%である事実」を示し、「追究活動で得たおいしさのいちばんのひみつ」と「白しょうゆの全国での生産量」をかかわらせる発問をする。

④ 社会参画の意識を具現化するための工夫

高まった社会参画の意識をもとに、白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを広めたいと動き出そうとするため、解き明かしたおいしさのひみつを活用できるような学習課題を提示し、社会参画する対象や方法を考える。

(6) 単元の目標

- ・地域に見られる工場の仕事について、見学・体験したり資料を調べたりして、必要な情報を集め、生産に従事する人々の仕事の様子や地域との関連を理解することができる。（知識及び技能）
- ・工場の仕事の様子と地域の人々の生活との関連を考え、適切に表現することができる。（思考力・判断力・表現力等）
- ・地域にみられる工場の仕事について、予想を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。（学びに向かう力、人間性等）

2 研究の実践と考察

(1) 指標児童の設定

指標児童Aの現状と願いを資料1に示す。

(2) 単元計画

単元計画を資料2に示す。指標児童Aの変容をもとに仮説を検証していきたい。

【Aの現状と願い】【資料1】

理解力があり、一生懸命取り組む児童である。「学校があるところは家に囲まれ、家のあるところはお店に囲まれていて、すごいなと思った。」と記述し、学校のまわりの様子について、自分の生活と追究したことを関連づけ、考えを深める姿が見られた。しかし、自分の考えを押し通す傾向があり、一度決めたら譲らない一面も見られる。そこで、追究から得られた自分の意見と仲間の意見をかかわらせることで、他の意見を取り入れながら、自分の考えを振り返ることができるようになってほしい。

(3) 授業の実践

i てだて①単元との出会いの工夫と単元を貫く課題の設定

第1時で、白しょうゆへの興味・関心を高めるため、「白しょうゆとこいくちしょうゆの実物（写真1）」を提示し、「白しょうゆとしょうゆのちがいを考えよう」という課題を提示した。おいをかぐ、味見をするなどしながら、白しょうゆとしょうゆを比較する活動を行った。子どもたちは、「あまい味」「うすくて強い味」「塩としょうゆの味」（写真2②）、「うすい色」「ラードみたいな色」（写真2③）、「うすいにおい」「やさしいにおい」（写真2④）、「さしみにあいそう」「おいしい」（写真2⑤）など、白しょうゆの「あ味」「⑥色」「③におい」「④使われ方」に気づいていった。教師は、白しょうゆが新川発祥であることに気づき、白しょうゆのひみつを解明したいと強く思うことができるようにするため、「明石公園にある白しょうゆの記念碑」（写真3）を提示し、「この記念碑はどこにあるか知ってる。どうしてあるのか知ってる」と問いかけた。その後、「あ味」「⑥色」「③におい」（写真2）に共通する「うすい」の意見を取りあげ、「白しょうゆはどのように作っているのかな」と問いかけ、「七福醸造株式会社の見学」に行くことを伝えた。Aは「白しょうゆとしょうゆのちがいがいろいろ分かって」「色、味、においがうすいこと」と、白しょうゆとしょうゆのちがいがいろいろ分かって

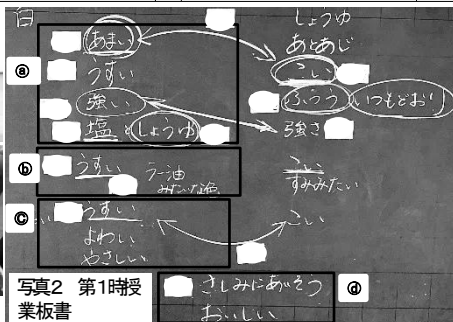
資料2 単元計画

学 習 課 題	学習活動（①活動 ②資料 ③見学・体験 ◆インタビュー）	時間	子どもの意識	研究の視点
白しょうゆとしょうゆのちがいを考えよう	①白しょうゆへの興味・関心を高める活動 ②白しょうゆが瑞穂の新川発祥であることを把握 ③白しょうゆとこいくちしょうゆの実物を比較 ④明石公園にある白しょうゆの記念碑	1	白しょうゆとしょうゆの違いが、たくさんあるなんて、びっくりしました。もっと、白しょうゆのことを知りたいと思いました。	①
白しょうゆを作っている工場を見学して、ひみつを見つけよう	①見学の視点を焦点化するための話し合い ②白しょうゆ・白だしの追究意欲を高める見学 ③七福醸造株式会社の見学 ④白しょうゆ・白だしを使った料理の試食	2	きゅうりのあきづきの漬物がにのこりしました。きゅうりがきらいなのに、とてもおいしかったからです。白しょうゆや白だしのおいしさのひみつをもっと知りたいと思いました。	①
七福さんの見学をふり返ろう	①白しょうゆのおいしさを確認 ②単元を貫く課題の設定	1	白しょうゆや白だしがおいしいのは、たぶん、心をこめて作っているからだだと思います。もっとひみつを知りたい。	①
単元を貫く課題：新川で初めて作られた白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを解き明かそう				
おいしさのひみつは何？作り方からとき明かそう！	①追究1：白しょうゆ・白だしのおいしい作り方の解明 ②見学で学んだおいしい作り方をまとめた資料 ◆七福醸造「芝田さん」のインタビュー	1	白しょうゆがおいしいのは、時間をかけて、でいねいに作っているからだだと思います。自然のにおいしさをのこしたいと思いました。	②
おいしさのひみつは何？はたらく人からとき明かそう！	①追究2：はたらく人の工夫や思いの解明 ②見学で学んだおいしく作る人の工夫や思いをまとめた資料 ◆七福醸造「芝田さん」のインタビュー	1	21度3回調べるのが大事だと思いました。調べるのはむずかしいけれど、少しでもずれると色がかわり、白しょうゆじゃなくなるからです。	②
おいしい味わい方のひみつを見つけよう	①白しょうゆ・白だしのおいしい味わい方の体験 ②白しょうゆ博士とプロの料理人出前講座 ③白しょうゆを使った料理の調理と試食 ◆白しょうゆ博士「加藤さん」のお話	2	白しょうゆのにおいが300種類もあるなんて、びっくりしました。作ったズッキーニは、おいしかったです。白しょうゆのことをもっと知りたいです。	②
おいしさのひみつは何？味わい方からとき明かそう！	①追究3：白しょうゆ・白だしのおいしい味わい方の解明 ②体験で学んだおいしい味わい方をまとめた資料 ◆料理研究家「山口さん」のインタビュー ◆調味料エバンジェリスト「下倉さん」のインタビュー	1	においが300種類もあるから、どんな料理にも合うのかもしれない。料理が楽しくなって、わくわくするし、塩の代わりにかえるのかもしれない。	②
とき明かした「おいしさのひみつ」をまとめよう	①追究してきた「白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつ」のまとめ ②今まで学習に用いてきた写真 ③ICT 機器の活用	2	いちばんのひみつは、作り方だと思います。自然のいい材料を使い、麹菌だけをまぜ、昔ながらの9：1で作るとあまみが出て、色もうすい白しょうゆになるからです。	②
おいしさの一番のひみつをとき明かそう	①白しょうゆ・白だしのおいしさの「いちばんのひみつ」の解明と社会参画の意識の高揚 ◆調味料エバンジェリスト「下倉さん」のインタビュー ②3年1組の白しょうゆ・白だしのアンケート結果と白しょうゆの生産量のグラフ	1	白しょうゆや白だしは、すごくおいしくて、なくてはならないものなのに、0.7%しか作られていないなんて、びっくりしました。白しょうゆのおいしさを広めたいと思いました。	③
とき明かした「おいしさのひみつ」を伝えよう	①高まった社会参画の意識の具現化 ②白しょうゆに関する事前アンケート結果（2・6年生）	1	白しょうゆを知らない人たちに、特徴や安心安全なことを伝えたいと思いました。2年生やもっとたくさんの人に伝えたいです。	④
白しょうゆや白だしのおいしさを自まんしよう	①おいしさのひみつを広めるための作成 ②2年生においしさのひみつを伝える活動 ③6年生に向けてちらしを掲示する活動 ④七福醸造株式会社へちらしを掲示する活動	1	2年生の子が、白しょうゆを使ってみたくてくれて、うれしかったです。作ったちらしもたくさんの人が見て、白しょうゆのおいしさを知ってほしいです。	④

写真1 提示した「白しょうゆ」と「こいくちしょうゆ」



写真3 明石公園の記念碑



白しょうゆとしょうゆのちがいがいろいろ分かって楽しかったです。色、味、においがうすいことに気づきました。白しょうゆが新川で初めて作られたなんて知らなかったです。白しょうゆのことをたくさん知りたいな。七福さんに早く行きたいです。（第1時のAの授業記録）【授業記録1】

白しようゆや白だしがおいしいは、ざいりょうもあると思うけど、たぶん、はたらいている人が心をこめているからだと思います。2年生のときに、3年生が教えてくれたことはおぼえてないから、おいしさのひみつを分かりやすくお伝えたいと思います。(第4時のAの授業記録) **【授業記録4】**

資料6 芝田さんのインタビューの内容（第6時）

白しょうゆや白だしは、はたらく人が手間と時間をかけて、高さゆうなさいりょうを使い、こうじきんだけをまぜていることがすごいと思いました。わたしは、かみかみかつたわるおいしいうが、これからも同じ味をつたわてほしいと思いました。(第5時のAの授業記録) **授業記録5**

④春夏秋冬、21度でかんりする

⑤かいやはかにあせず、人の目できしかめる

⑥あかたうの言葉をもせごしている

資料5 3つのはたらく人のひみつ

きかみだけではきれいにできないので、人ときかみがチーム
ワークよくやっているのがいいと思います。おれい安心な
のがすごいです。ありがとうの里のみなさんは、ありがた
うの言葉をだいににして、やさしい人が作っているので、こ
んなおれいのかと思っています。こんな日しようをしてく
れたいです。(第6時のAの授業記録)

授業記録6

写真8 加藤さんと白しようゆの香り成分の体験

写真9 山口さんのあじさいご飯の実演

写真7 白しようゆ博士の加藤さん

写真8 伊東さんと白しようゆの味見体験

写真9 ズッキーニの浅煎ぎ体験

資料7 香り成分のみみつ

資料7 香り成分のみみつ

資料7 香り成分のみみつ

資料7 香り成分のみみつ

資料7 香り成分のみみつ

資料7 香り成分のみみつ

資料7 香り成分のみみつ

白しようゆと白だしは、新川でうまれたもので、自まんで
るものだから、日本に広めた」です。白しようゆや白だしをつ
かうと見た目もきれいになり、味もおしくなります。きれ
いなズッキーニでもきにせず、おいしく食べれたから、びく
りました。白しようゆのめりよくがれて、白しようゆも
とすきになりました。(第8時のAの授業記録) (授業記録8)

心、心にのこったこととその理由を書くところ
イデのあいぶんはんしんるい
答が「300しうで」とた
かにいうしあります。Eは
どなり、あいちでは、うも
んど。は、ちはんてんであ
白しようゆ・白だしの味のわいのひみつ
ふかいながあかうと、時
つかうと、まためくれ
かんじをさだめ、白しよう
り。お店でも白しようにけ
な。白しようは、色、かてで
の理由を書くところ
す。なぜなら、きらいなわ
ただからで。おとしするは
用、いまちほかのわいる
いがいをむくからたごは
人のワークシートの一部【授業記録7】

(ア) かおりが
300しゅるい
で、どんなりょ
う理にも合う

(イ) まぜるだけ
で、食べ物のおい
しさを引き出す

(ウ) しょうゆゆ
り色がうすく、見
た目もよくなる

資料8 3つの味の味方のみつ

も、自分の思いを深めていることがうかがわれる【授業記録9】。第10・11時では、「今は、味を感じて、はたらいっている人のど力を考えて、つかっていきます」という思いの高まりを受け、今まで解明してきた白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつをまとめ、おいしさのいちばんのひみつを考えるため、「とき明かした『おいしさのひみつ』をまとめよう」という課題を提示し、「I. 作り方」「II. はたらく人」「III. 味わい方」について、タブレット端末を用いて追究のまとめ【授業記録10】を行った。Aは「天然の材料を使う（I）」「その食ざいでできる白しょうゆや白だしの味がかわってしまう」「ありがとうの言葉を大切にしている（II）」「ありがとうと言ったらおいしくなる」「七福さんではたらいっている人は、ありがとうを大切にしている」「香りが300種類でどんな料理にも合う（III）」「どんなりょうりにも役立ち、わくわくしてつかいたい」を決め手に、「I. 作り方」「II. はたらく人」「III. 味わい方」のおいしさのひみつを解き明かした【授業記録10】。第11時の終末で、社会的な見方や考え方を働かせ、次時でおいしさのいちばんのひみつを解き明かすため、「今まで解き明かしてきた作り方・はたらく人・味わい方のなかで、いちばん伝えたいおいしさのひみつは何か」と問いかけ、振り返りを記述した。Aは「IIやIIIも大切だと思うけど」と、今まで追究してきた作り方・はたらく人・味わい方のひみつを比較して関連づけ、「まずは、ざいりょう」「そのざいりょうでないと、白しょうゆの味にならない」「ざいりょうのりょうもとても大切」「むかしから長く長くうけつがれてる」と、おいしさのいちばんのひみつを解き明かしていることがうかがわれる【授業記録11】。

さいしょは、何も気にせずにつかっていたけど、今は味を感じて、はたらいっている人のど力を考えて、つかっていきます。見た目や味を生かしたり、しおのかわりにつかうとおいしくなるまほうの調味料ようで、すごくやく立つものだと思います。(第9時のAの授業記録)【授業記録9】



写真10 料理研究家の山口さん

・食材の味や色を生かしたいとき、きれいな色の食材ややさしい味の食材にはぴったり。
・味が決まらないとき、味が物足りないときに塩気とうまみのある白しょうゆを使うといい。



写真11 調味料エバンジェリストの下倉さん

・白しょうゆは、どちらかというと塩みたいで味が塩の代わりに使うのがおすすめ。
・ふだん塩を使っているところに、白しょうゆを使うと料理がおいしくなるものがふえる。

資料9 山口さんのインタビューの内容

資料10 下倉さんのインタビューの内容(第9時)

・白しょうゆは、なくてはならない調味料。
・白しょうゆがないと料理がおいしくならない。
・必ず冷蔵庫に入れるようにしている

資料11 下倉さんのインタビューの内容(第12時)

I. おいしい作り方のひみつ



II. はたらく人のひみつ



Aの追究のまとめ【授業記録10】

III. おいしい味わい方のひみつ

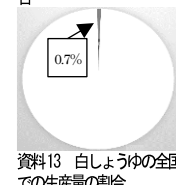
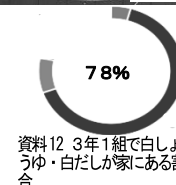
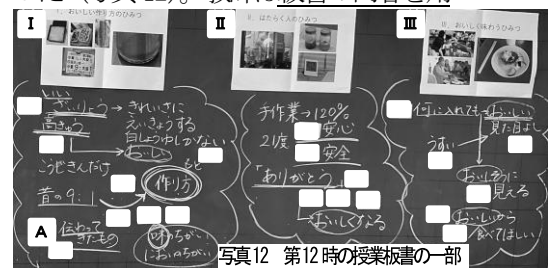


まずは、ざいりょうです。なぜなら、そのざいりょうでないと、白しょうゆの味にならないからです。IIやIIIも大切だと思うけど、ざいりょうのりょうもとても大切だと思うし、むかしから長く長くうけつがれてるから、とても大切だと思います。(第11時のAの授業記録)【授業記録11】

よって、てだて②により、粘り強く課題を解決することにつながったと言えるだろう。

iii てだて③資料や発問を工夫し、追究活動を通して得た考えを話し合う場の設定

単元を貫く課題を粘り強く追究するなかで解き明かしたおいしさのいちばんのひみつ「まずは、ざいりょう」「そのざいりょうでないと、白しょうゆの味にならない」【授業記録11】をもとに、第12時では、「おいしさのいちばんのひみつをとき明かそう」という課題を提示して話し合う場を設定した。仲間の意見や思いに触れながら、白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを再評価することを通して社会参画の意識を高めようと考えた。「I. 作り方」「II. はたらく人」「III. 味わい方」のなかから、前時までの追究活動で解き明かしたいちばんのひみつを用い、仲間の意見や思いにふれることができるようにするため、「いちばん伝えたいおいしさのひみつはどれかな」と発問した。子どもたちの意見は、I(15人)・II(7人)・III(7人)と、七福さんの見学や出前講座から解き明かしたおいしさのひみつに集中した。Iは「いい材料を使うからきれい」「高級な材料だからおいしい」「昔と同じ9:1だからおいしい」「昔から伝わってきたおいしさ(児童A)」、IIは「ありがとうは、おいしくなる」「人の目があると安心・安全」「手作業もあり、120%安全」、IIIは「何に入れてもおいしい」「見た目もよくなる」「おいしそうに見える」など、子どもたちは、粘り強い追究活動で得た学びを生かしながら、考えを交流していった(写真12)。教師は板書の内容を用い、「今も昔も同じおいしさで、安心・安全で、簡単に味わえる白しょうゆや白だしは、みんなにとってどんなものかな」と発問し、調味料エバンジェリストの下倉さんのインタビュー(資料11)を提示し、白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを再評価できるようにした。子どもたちは、「うちの冷蔵庫にもあって、なくてはならないものだよ」「うちもきゅうりのあさづけに使っている」「なくてはならない調味料だよママも言ってた」「どんな料理にも役立つひみつの調味料だよ(児童A)」「魔法の調味料だね」など、仲間の意見や思いに触れることで、白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを再評価し、生活と深くかわっていることに気づいていった。社会参画の意識を高めるため、「3年1組で白しょうゆ・白だしが家にある割合(事前に保護者にアンケートを依頼)」(資料12)と「白しょうゆの全国での生産量の割合」(資料13)を提示し、「3年1組では、78%の家にあり、なくてはならない白しょうゆが、全国では0.7%しか作られていないんだって。どう思う」と発問した。「そんなに少ないなんて」「おいしいのに、何で少ないの」「白しょうゆのおいしさを知らないなんて、かわいそう」「白しょうゆのおいしさを伝えたい」「おいしさのひみつを広めたい」「ありがとうの里の人の愛情がこもった白しょうゆのおいしさを広めたい(児童A)」と、白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを広めたいという思いを高めていった(資料14)。Aは「白しょうゆは有名なちょう味りょう」「0.7%しか作られていないと知って、とてもおどろき」「ありがとうの里の人が一生けんめい時間をかけてくれるから、こんなにひみつがある」と、白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを再評価し、「かんたんにつかえるし、食べるとおいしいから、かかせないもの」「たくさんりのりょう理にやくだつから、ひみつのちょう味りょう」と、仲間の意見や思いに触れることで、白しょうゆ・白だしについて、自分



(資料12・13を提示した後)
T 3年1組では、78%の家にあり、なくてはならない白しょうゆが、全国では0.7%しか作られていないんだって。どう思う
C31 そんなに少ないなんて、びっくりした。
C (ロクに) ぼくも。わたしも。
C32 おいしいのに、何で少ないのかなと思う。
C33 白しょうゆのおいしさを知らないなんて、かわいそうだと思います。(中略)
T どうしたい。
C34 白しょうゆのおいしさを伝えたい。
C35 白しょうゆのおいしさのひみつを広めたい。
児童A ありがとうの里の人の愛情がこもった白しょうゆのおいしさを広めたい。

資料14 7月7日授業記録の一部

の生活との視点でも考えを深めていることがうかがわれる【授業記録12】。さらに、「白しょうゆや白だしのおいしさをたくさんの人に広めたい」と、白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを広めたいという社会参画の意識を高めていることがうかがわれる【授業記録12】。よって、てだて③により、仲間の意見や思いにふれて考えを深めるなかで社会参画の意識を高めることにつながったと言えるだろう。

iv てだて④社会参画の意識を具現化するための工夫

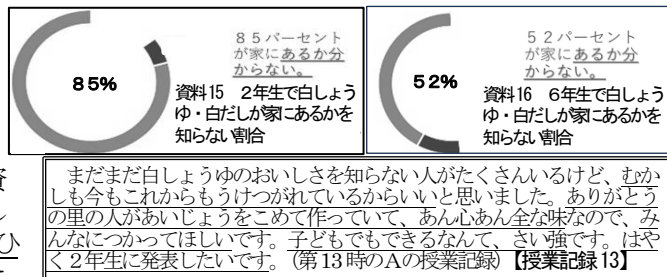
第13時では、「おいしさをたくさんの人に広めたい」という高まった社会参画の意識をもとに、「とき明かした『おいしさのひみつ』を伝えよう」という課題を提示し、白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを広めるために動き出そうと考えた。資料12(3年1組)・資料13(全国)の他に、事前にアンケートした2年生(資料15)・6年生(資料16)の結果も提示し、「どのひみつを伝えたいかばん効果があるかな」と発問した。子どもたちの意見は、以下ようになった。「Ⅰ. 作り方」(5人)は、「今もむかしもこれからも変わらない味を伝えるといい」など、「Ⅱ. はたらく人」(7人)は、「安心・安全な味を、2年生みたいに、白しょうゆを知らない人に伝えるといい(児童A)」など、「Ⅲ. 味わい方」(17人)は、「6年生のように使い方を知らない人に、子どもでも簡単にできることを伝えるといい」などであった。教師は、対象と方法を焦点化するため、「2年生のように白しょうゆを知らない人には、安心・安全、6年生のように使い方を知らない人には、味わい方だけを伝えればよいかな」と問いかけた。「Ⅰの作り方がないと、白しょうゆの特長が分からない」「Ⅰも必要」という意見が多くを占め、「白しょうゆを知らない人には、作り方と安心安全」「使い方を知らない人には、作り方と味わい方」のひみつを伝えると良いという考えに収束していった。さらに、白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを広めようと動き出すため、「去年の3年生は、白しょうゆのひみつを教えてくださいましたけど、みんなはどうする。」と問いかけた。すると、「今年も発表したい」という思いが高まっていった。Aは「むかしも今もこれからもうけつがれていく」「ありがたいの里の人があいじょうをこめて作っていて、あん心あん全な味」「みんなにつかってほしい」「子どもでもできるなんて、さい強」「はやく2年生に発表したい」と、2年生においしさのひみつを伝えたいと動き出そうとしていることがうかがわれる【授業記録13】。よって、てだて④により、高まった社会参画の意識をもとに、白しょうゆ・白だしのおいしさを広めたいと動き出そうとすることにつながったと言えるだろう。

3 研究の成果と今後の課題

第14時では、「はやく2年生に発表したい」という思いをもとに、「白しょうゆや白だしのおいしさを自まんしよう」と発問し、タブレット端末を用いてちらしを制作し、2年生には発表、6年生には掲示する活動を行った。Aの制作したちらしを資料17に示す。Aは、「はたらく人のひみつを中心に、「あいじょうこもったしろしょうゆ」というキャッチフレーズをつけた(資料17)。「こうきゅうなざいりょうで、むかしからつたわった(見学・第5時)」「あんしんあんぜん」(第6時)、「かんたんにあじわえる」(出前講座・第9時)と、おいしさのひみつを追究してきたことを生かして記述している(資料17)。これは、Aが、新川発祥の白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを学びたいと強く思い、「作り方のひみつ」「はたらく人のひみつ」「味わい方のひみつ」で学んだ事実を比較・関連づけたりしながら、粘り強く課題を解決した姿といえてよいだろう。さらに、「むかしからつたわるおいしい味が、これからも同じ味でつたわってほしい」【授業記録5】、「白しょうゆをして、うれしい」【授業記録6】、「白しょうゆと白だしは、新川でうまれたもので、自まんでできるものだから、日本に広めたい」「白しょうゆのみりよくがしれて、白しょうゆがもっとすきに」【授業記録8】、「今は、味を感じて、はたらいっている人のど力を考えて、つかっていきます」【授業記録9】と、Aの思いが深まっている。これは、はたらく方の思いに触れることで、白しょうゆへの社会認識が深まっている姿といえてよいだろう。このAの姿と2(3) i・iiの記述から、てだて①②は有効であったと考える。よって、仮説1は立証されたと言える。

「自分の考えを押し通す傾向があり、一度決めたら譲らない一面」【資料1】があるAが、追究のまため、「ⅡやⅢも大切だと思うけど、ざいりょうのりょうもとても大切」【授業記録11】と、「Ⅱ. はたらく人」や「Ⅲ. 味わい方」で学んだことを比較しながら、自分の考えを決めることができた。第12時では、「昔から伝わってきたおいしさ」(写真12)から、資料11の提示後には、「どんな料理にも役立つひみつの調味料だよ」と変化し、資料12・13の提示後には、「ありがたいの里の人の愛情がこもった白しょうゆのおいしさを広めたい」(資料14)と、仲間の意見に触れることで、白しょうゆのおいしさのひみつを「ありがたいの里の人の愛情がこもった」と考えを深めることができた。2年生への発表後には、「白しょうゆは、いっぱいのかふうとありがたいの里の人のきもちがいっぱいあるからおいしい」「お店にもちらしをはりたい」「これからは白しょうゆを使っていきたい」【授業記録14】と記述している。これは、Aが、仲間の意見や思いにふれて考えを深めるなかで社会参画の意識を高め、その意識をもとに、白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを広めたいと動き出そうとした姿と言ってよいだろう。この姿は「あいじょうこめて」「ふつうのしょうゆとひとあじちがう」「ありがたいがこもった」「うすくてつかわなかつたらそん」「はじめのひとあんしんしてぜひつかって」(資料17)、「2年生の子が、白しょうゆをかいたいと言ってきて、うれしかった」【授業記録14】にも現れていると考えられる。このAの姿と2(3) iii・ivの記述から、てだて③④は有効であったと考える。よって、仮説2は立証されたと言える。

社会科を学び始めたばかりの子どもたちでも、社会的な事象をより自分事にとらえ、課題意識をもち続けられるように単元を構成し、仲間(人・もの・こと)の思いに効果的に触れることができれば、社会参画の意識をより高められることがわかった。課題は、社会的な事象をどれだけ自分事としてとらえ、単元を貫く課題を追究できるように単元を構想できるかであると考えられる。どの単元でも、より自分事として社会的な事象をとらえられるよう、地道な教材研究と教材の出合わせ方を研究していきたい。



2年生の子が、白しょうゆをかいたいと言ってきて、うれしかった。6年生にもたくさんちらしを見てほしい。新川にも白しょうゆのことを知らない人がたくさんいて、びっくりした。白しょうゆは、いっぱいのかふうとありがたいの里の人のきもちがいっぱいあるからおいしい。お店にもちらしをはりたい。これからは白しょうゆを使っていきたい。(第14時のAの授業記録)【授業記録14】

あいじょうこもったしろしょうゆ



〈とくちょう〉
こうきゅうなざいりょうで、むかしからつたわったしろしょうゆ。
あんしんあんぜんかんたんにあじわえるおいしい。つくってくれたひとがあいじょうをこめてつくったもの。ふつうのしょうゆとはひとあじちがう。

〈安心安全〉こうじょうけんがなくてありがたいがこもったおいしいしろしょうゆ。でもわるくちはいらないね。

〈金力アビール〉
ふつうのしょうゆとは、ちがってうすくてつかわなかつたらそん。はじめのひとあんしんしてぜひつかって。

資料17 Aの制作したちらし